

## 第 2 期

# 事業報告書

自 30 年 (2018 年) 4 月 1 日  
至 31 年 (2019 年) 3 月 31 日

3.11 メモリアルネットワーク

共同代表 武田 真一

共同代表 藤間 千尋

## ＜要旨＞

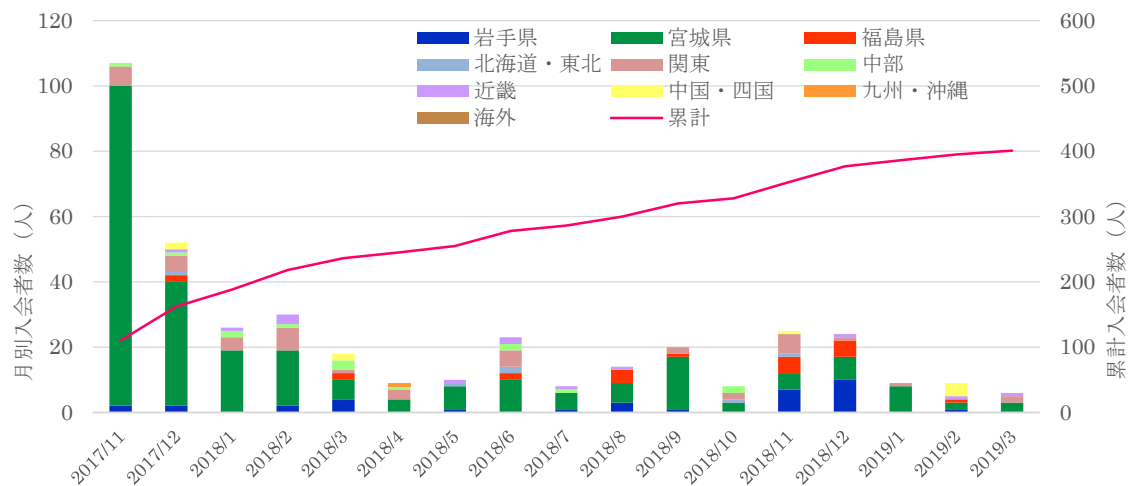
3.11 メモリアルネットワークは、2017年11月17日に発足し、東日本大震災後の伝承活動を結ぶネットワークとして、伝承活動を行う個人・団体・震災伝承拠点を結ぶネットワークを形成し、将来にわたり伝承活動を続け、命を守り、社会の困難に立ち向かう活力ある人・地域づくりに取り組むことを目的に、「連携、調整」「企画、評価」「人材育成」に係る事業を実施してきた。

第2期は、会員の意見から生まれたプロジェクトが始動し、具体的な企画が実施されてきた。一方で組織のあり方に関する議論も行われ、2018年末には体制の方針が定まり、岩手・宮城・福島県の3県から新理事が選出され、広域連携を推進する新たな体制が整った。

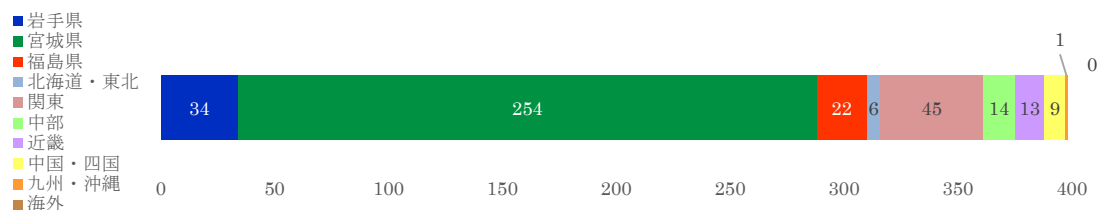
## ＜各事業の報告＞

### I 震災伝承、防災・減災活動の連携、調整

・今期は個人会員167名、16団体が新規入会し、2019年3月末時点で個人会員398名、登録団体64団体となった。地域別では、宮城県254名、岩手県34名、福島県22名、その他の地域で88名となっている。



月別新規入会者数推移 (2017年11月～2019年3月)



地域別会員数 (2019年3月末時点)

- ・全体会を5回開催し、のべ214名が参加した。東松島市で開催された第3回全体会では、「あなたにとっての3.11メモリアルネットワーク」というテーマでワークショップを実施し、その後の各種プロジェクトの発足につながった。名取市で開催された第4回全体会では団体のロゴが決定するとともに、組織体制に関する議論が深められ、その後3回の勉強会を経て、石巻市で開催された第5回全体会で組織のあり方の方針が決定するとともに、理事改選が承認された。第6回全体会では理事推薦投票を実施し、新たに10名の理事が選出された。仙台市で開催された第7回全体会は、次期の計画が報告されるとともに、12月に選出された新理事より挨拶が行われた。
- ・全体会や組織のあり方勉強会の開催にあわせて、開催地域の会員有志の協力により視察ツアーが実施された。東松島市野蒜地区（JR野蒜駅～避難階段～旧野蒜駅プラットフォーム等）、名取市閑上地区（閑上の記憶～新市街地）、仙台市若林区荒井地区（せんだい3.11メモリアル交流館展示）、南三陸町志津川地区（南三陸ポータルセンター～高野会館～南三陸町防災対策庁舎）を、その地で伝承活動をされている会員の案内で見学し、互いの地域の活動を知り合い、学ぶ機会となった。

第3回全体会	2018年 4月23日	東松島市野蒜市民センター (宮城県東松島市)	48名 参加	第1期事業報告・決算報告承認、WS等 ※野蒜視察ツアー実施
第4回全体会	2018年 7月9日	閑上の記憶 (宮城県名取市)	46名 参加	団体ロゴ投票、今後の組織体制協議等 ※閑上視察ツアー実施
第5回全体会	2018年 11月11日	かわまち交流センター (宮城県石巻市)	29名 参加	理事改選承認、事務局法人承認等 ※第3回組織のあり方勉強会後に開催
第6回全体会	2018年 12月9日	石巻市防災センター (宮城県石巻市)	45名 参加	第2回理事推薦投票実施 規約変更承認等
第7回全体会	2018年 3月23日	宮城県庁講堂 (宮城県仙台市)	46名 参加	第3期事業計画報告、新理事挨拶等 ※第2回伝承シンポジウム後に開催

#### 第2期 全体会

第1回勉強会	2018年 9月30日	せんだい3.11メモリアル交流館 (宮城県仙台市)	48名 参加	※せんだい3.11メモリアル交流館 視察ツアー実施
第2回勉強会	2018年 10月20日	南三陸町ポータルセンター (宮城県南三陸町)	46名 参加	※志津川視察ツアー実施
第3回勉強会	2018年 11月11日	かわまち交流センター (宮城県石巻市)	29名 参加	※第5回全体会前に開催

#### 組織のあり方勉強会



東松島市で行われた第3回全体会（2018/4/23）



南三陸町志津川の視察ツアー（2018/10/20）

- ・3.11 メモリアルネットワークは宮城県石巻市で発足したが、当初より県を超えた広域での連携の必要性について強く意識されてきた。全体としては、まだ宮城県の会員の割合が多いが、今期は岩手県大船渡市で活動説明会を実施（39名参加）したり、各種会議等への参加を通じて、岩手、宮城、福島の3県の震災伝承、防災・減災関係者に活用してもらえるネットワークとなるよう、参画を呼びかけに力を入れた。



大船渡市で行われた活動説明会（2018/7/31）

- ・第2回目となる理事推薦投票は、会員の地域の広がり背景に実施が決定したものであることから、投票実施に先立ち、岩手、宮城、福島の各県から広く理事が選出されるよう理事推薦投票規程で新たなルールが規定されるとともに、投票時に会員が参考にできるように自薦他薦によるPRリストが作成された。期日前投票を含む個人会員の投票によって、岩手県3名／宮城県5名／福島県2名の計10名が新理事に就任した。



第2回理事推薦投票（2018/12/9）

- ・役員会は計16回開催、11月まではプロジェクトの整理や実施検討、組織のあり方、団体ロゴの利用、各種規程の制定等に関する議論が行われ、組織基盤の整備が図られた。12月の新体制移行後には新理事で合宿が行われ、これまでの活動の情報共有がなされるとともに、団体の活動目的や内容、中期的な計画についても具体的な議論が開始された。また、広域化により毎回の役員会へのWEB参加が通例となった。



第20回役員会（2018/12/18）



新理事による合宿（2019/2/14）

- ・2019年3月末時点で7組織がアドバイザーとなっている。前期から継続の復興庁宮城復興局、宮城県震災復興・企画部震災復興推進課、石巻市が加え、新たに、仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室、南三陸町、復興庁岩手復興局、東北大学災害科学国

際研究所が就任承諾され、全体会で選任された。

- ・会員、アドバイザーの間で連絡、情報共有を行うためのメーリングリストを設置、管理し、随時、双方向に情報を交換できるようにしており、今期は 96 件の利用があった。

## II 震災伝承、防災・減災活動の企画、評価

- ・2018年4月23日開催の第3回全体会のワークショップにおいて会員から出された意見が21種類のプロジェクトに整理された。このうちの一部を第2期の事業として推進していくこととなり、会員有志がメンバーとなり、プロジェクトリーダーを中心にそれぞれの活動が開始された。ただし、未実施のものも多く、どのように実現していくかが今後の課題となっている。
- ・「学びあい交流プロジェクト」「各地に震災伝承看板設置プロジェクト」「若者プロジェクト」「基金推進プロジェクト」「チラシ拡散プロジェクト」「ウチに来てプロジェクト」は2019年3月時点で継続的に実施されており、「組織のあり方検討プロジェクト」「アンケート、自己評価プロジェクト」「団体紹介号プロジェクト」「シンポジウム開催プロジェクト」は特定の期間（時期）に実施され、必要に応じて再開するものとなっている。

1	組織のあり方検討プロジェクト	法人化も含めた組織の今後を検討	実施
2	アンケート、自己評価プロジェクト	会員から意見を集め事業に反映	実施
3	学びあい交流（質の向上）プロジェクト	研修、勉強会、活動発表、座談会等	継続中
4	各地に震災伝承看板設置プロジェクト	屋外掲示板制作、調整、設置	継続中
5	事前学習教材プロジェクト	修学旅行等向け学習用冊子、書籍制作	未実施
6	子供たちへの3.11伝承プロジェクト	総合学習や避難訓練のお手伝い等	未実施
7	パンフレットづくりプロジェクト	3県の伝承活動をまとめたマップ制作	未実施
8	若者プロジェクト	若者による伝承の場づくり、勉強会等	継続中
9	基金推進プロジェクト	寄付獲得のための企業訪問、説明会等	継続中
10	団体紹介号プロジェクト	登録団体紹介のWeb 広報誌発行	実施
11	チラシ拡散プロジェクト	会員の周囲でのチラシ設置・配布協力	継続中
12	ウチに来てプロジェクト	会議、研修等の会場手配、調整協力	継続中
13	コンテンツづくりプロジェクト	本、動画、写真集、カレンダー等制作	未実施
14	研究者と仲良くなるプロジェクト	学術分野との連携、協力	未実施
15	行政と仲良くなるプロジェクト	行政との継続的な対話、調整	未実施
16	ICT ツール活用プロジェクト	会議のWeb 配信、電子マップ等汎用化	未実施
17	Web、SNS 発信強化プロジェクト	Web サイト、FB での情報発信の充実	未実施
18	講演可能人材リスト作成プロジェクト	出張講演可能な人材リスト作成、公開	未実施
19	コースづくりプロジェクト	震災学習のモデルコースづくり	未実施
20	受け皿、窓口プロジェクト	広域の震災学習の受入れ窓口整備	未実施
21	シンポジウム開催プロジェクト	第2回シンポジウム企画、開催	実施

プロジェクト一覧

- ・学びあい交流プロジェクト（旧：質の向上プロジェクト）では、各地の会員に自身の活動地域において講話やガイドを実施してもらい、希望者で視察に訪れ、意見交換を行う「あの日を伝える学びあい」と勉強会を計4回開催した。日常的に接することの少ない、同業

者の活動に学び、交流する貴重な機会となった。

あの日を伝える 学びあい vol.1	2018年 9月22日	石巻市防災センター (宮城県石巻市)	講話：佐藤敏郎氏(大川伝承の会) グループディスカッション
あの日を伝える 学びあい vol.2	2018年 11月13日	かわまち交流センター (宮城県石巻市)	参加者自己紹介 講話：黒澤健一氏(がんばろう!石巻の会)
勉強会	2018年 12月8日	リアス・アーク美術館 (宮城県気仙沼市)	展示観覧 講話：山内宏泰氏(リアス・アーク美術館)
あの日を伝える 学びあい vol.3	2019年 2月17日	中浜小学校、つばめの杜ひだ まりホール(宮城県山元町)	語り部ガイド：井上剛氏(やまもと語りべの会) 視察：岩佐勝氏(つばめの杜ひだまりホール) 振り返り会

### 第2期 学びあい交流プロジェクト活動



リアス・アーク美術館での勉強会(2018/12/8)



山元町でのあの日を伝える学び合い(2019/2/17)

- ・各地に伝承看板設置プロジェクトでは、2018年6月に会員へ看板設置希望者を募り、希望した5団体と調整を進め、今期は3基の看板を設置した。独自の施設等設置が困難な場所においても訪れた人が震災を伝える情報に常時触れることができるようになり、設置地域における伝承活動を支える機能の充実につながった。

1	岩手県宮古市田老地区	2019年2月設置完了	設置者：NPO 津波田老・大棒氏
2	宮城県石巻市渡波地区	2019年3月設置完了	設置者：チームわたほい・遠藤氏
3	宮城県石巻市門脇地区	2019年3月設置完了	設置者：がんばろう!石巻の会・黒澤氏

### 第2期 各地に伝承看板設置プロジェクト活動



田老地区に設置された看板(提供：NPO 津波田老)

- ・若者プロジェクトでは、若者トークを5回実施した（シンポジウムでの実施を除く）。被災した各地で震災伝承に取り組む中学生～若手の社会人がメンバーとなり、活動発表やそれぞれの伝承活動のきっかけや思い、課題などをテーマにクロストーク（座談会）を行い、「あの日のいろんなこと」に関する若者の発信の場、また若者同士の交流の機会として今後も継続されることになっている。
- ・2018年8月、若者プロジェクトのメンバーである大学生2名が、西日本豪雨で大きな被害のあった愛媛県西予市へボランティアに行き、「若者トーク番外編」として報告会を企画、開催した。今後、南海トラフや首都直下地震など各地で大きな災害の発生が想定されるなか、支援のあり方の模索や事前の関係づくりにつながる有益な機会となった。

第2回 若者トーク	2018年 5月6日	南浜つなぐ館 (宮城県石巻市)	前半に3組の若者による発表、後半に座談会を実施
第3回 若者トーク	2018年 8月7日	赤井市民センター (宮城県東松島市)	4組の発表と座談会を実施、地元の「あかいっこカンパニー」の子どもたちも多く参加
若者トーク 番外編	2018年 8月19日	つなぐ館 (宮城県石巻市)	西日本豪雨で被災した愛媛県西予市へボランティアに行った若者2名の報告、意見交換会
第4回 若者トーク	2018年 12月22日	閑上の記憶 (宮城県名取市)	名取市の「閑上の記憶」で6人の若者が体験談・活動紹介・メッセージを発信、座談会も実施
第5回 若者トーク	2019年 3月24日	震災遺構気仙沼向洋高校 (宮城県気仙沼市)	開館まもない震災遺構の施設で実施、前日のシンポジウムにも出演した熊本の若者も参加

#### 第2期 若者プロジェクト活動



西予市でのボランティア活動 (2018/8/10)



閑上で行われた第4回若者トーク (2018/12/22)

- ・シンポジウム開催プロジェクトでは、宮城県との共催／復興庁、内閣府政策統括官（防災担当）、岩手県等25組織（企業）の後援を得て、2019年3月23日に第2回伝承シンポジウム「響き合うために。」を宮城県庁で開催した。和歌山県・稲むらの火の館館長の崎山光一氏による特別講演、崎山氏と岩手、宮城、福島で伝承に取り組む3名によるパネルディスカッション、熊本と宮城の若者によるトーク、参加者による活動PR等が行われた。当日は約150名が参加し、東日本大震災から8年が経過したこれからの震災伝承について考えを深める機会となった。





シンポジウム会場の様子



パネルディスカッション

- ・団体紹介号プロジェクトでは、2018年5月にWebサイトで自由に閲覧、ダウンロード可能な状態で「団体紹介号 vol.1」のデータを公開した。また、シンポジウム開催プロジェクトでは、2019年3月の第2回伝承シンポジウムにあわせて登録団体紹介パネルの制作を行った。それぞれ33団体から情報、データ提供を得て制作されており、会員の協力により、広域で実践されている震災伝承活動をまとめて発信していくための情報が蓄積されてきた。



団体紹介号 vol.1



シンポジウム会場での登録団体紹介パネル展示

- ・2018年6月に会員へメールによるアンケートを実施し、3.11メモリアルネットワークの目指すもの、活動内容、活動地域、法人化の是非等の項目について、会員からの意見を募集した。40件の有効回答があり、その後の様々な議論でアンケート結果が活用された。

### Ⅲ 震災伝承、防災・減災人材の育成

- ・全体会や視察ツアー、学びあい交流プロジェクト、若者プロジェクト等での協働、参画により、会員各自の情報や知識、スキルの共有、関係性構築の機会が生まれた。
- ・若者プロジェクトでは、若者同士の交流、若者トークの実践、西予市ボランティアの経験等を経て、若手のプロジェクトメンバーによる「若者伝承会議」企画の発案や、発信力を鍛えることも目的としたインタビューの試みなど新たな企画が生まれている。また、若手のメンバー自身がシンポジウムの司会や若者トークのコーディネーターを務めるなど、新たな役割を担うようになってきた。





「若者伝承会議」の提案（2018/12/22）



シンポジウムでの司会（2019/3/23）

- ・人材育成の資金的基盤として、3.11メモリアルネットワーク基金の寄付募集を行った。WEBサイトやYahoo!JAPAN ネット募金ページで継続的に広報をしながら、様々な機会に企業や個人への個別の寄付のお願いを実施する一方で、マンスリーサポート制度（クレジットカード決済）の導入、ランディングページの設置により、新たな寄付者の獲得に努めた。2019年3月末時点で、指定寄付口座へのご寄付総額（マンスリーサポート含む）が6,308,409円、Yahoo!JAPAN ネット募金へのご寄付総額が2,224,851円（9,576人、継続寄付者56人）となっている。
- ・個人の寄付に加え、武田薬品工業株式会社、MS&AD ゆにぞんスマイル倶楽部、SOMPO ちきゅう倶楽部社会貢献ファンド、石巻ライオンズクラブ、永井真理子チャリティLIVE等から大口の寄付をいただき、2019年1月からは日本たばこ産業株式会社から継続的な支援をいただけることとなった。また、Yahoo!JAPAN ネット募金でライオン株式会社とサントリー株式会社がパートナー企業として「くじ付き募金」へ商品を提供してくれるなど、企業からの支援が広がった。

#### IV その他この会の目的を達成するために必要な事業

- ・新聞等の取材対応、雑誌への寄稿、講演依頼への対応を通じて3.11メモリアルネットワークの活動の広報を行った。
- ・2019年3月の仙台防災未来フォーラムでは、3.11メモリアルネットワークの活動紹介パネルの展示を行った。

2018年4月	楢山女学園大学 榎窪研究室	東日本大震災シリーズ 64 若者が語り継ぐ～3.11メモリアルネットワーク～
2018年5月	河北新報	震災伝承 若者ら議論 より若い世代へ課題探る 宮城・石巻
2018年8月	朝日新聞	震災伝える若者、つながる 東松島でトーク
2018年8月	毎日新聞	西日本豪雨 被災地の愛媛・西予で復旧に汗、石巻と女川で震災の伝承活動する学生2人 交流で支援方法など学ぶ
2018年8月	東北放送	震災で被災の大学生 豪雨被災地でのボランティア体験語る 宮城・石巻市
2018年8月	河北新報	<西日本豪雨>被災地で活動した学生ら石巻で報告「震災の復興過程を伝えることが支援に」

2018年8月	東北放送	津波で被災の大学生 豪雨被災地へ（Nスタみやぎ 復興の現在地）
2018年11月	河北新報	<3.11メモリアルネットワーク> 被災伝承へ会合 石巻が事務局継続
2018年12月	河北新報	<市民の力 NPO法20年>（5）完 協働・連携／活動継続の切り札に
2018年12月	毎日新聞	気仙沼で震災勉強会「記憶伝承、物語必要」
2018年12月	読売新聞	震災体験 若者が語る…名取・閑上でイベント
2018年12月	朝日新聞	宮城）あの日、どう向き合ったか 若者たちが語る震災
2018年12月	東北放送	宮城県内各地の若き語り部が集結
2019年1月	河北新報	<JT>震災伝承活動に9600万円助成へ
2019年1月	読売新聞	伝える復興に向けて 被災3県語り継ぐ輪
2019年2月	石巻かほく	伝承の在り方探る 3.11 シンポジウム 来月23日、宮城県庁
2019年2月	仙台放送	震災当時の校長が語り部に 山元町・旧中浜小学校
2019年2月	河北新報	<東日本大震災>旧中浜小前に伝承広場 震源地の方向や距離示す日時計モニュメント設置へ
2019年2月	ミヤギテレビ	【OH!バンドス】震災の伝承・語り部を支える環境づくり
2019年2月	河北新報	震災を伝える田老に看板 震災の記憶みて伝えて
2019年3月	読売新聞	震災の状況を伝える看板 石巻・渡波地区 市民ら制作 10日お披露目
2019年3月	読売新聞	〔震災8年〕「爪痕」から学ぶ備え
2019年3月	河北新報	3.11メモリアルネットワーク 災害の記憶 伝承誓う 被災地結び力を結集
2019年3月	毎日新聞	学校防災と震災伝承、二つのシンポジウム 備えで子供救えた 語り部、地域と対話が重要
2019年3月	毎日新聞	「若者トーク」で震災伝承 熊本の学生らも参加 気仙沼

第2期 メディア掲載情報一覧